

# New 門

ニュースの門

## 子どもの困窮 地域で防ぐ

社会保障部 石井千絵

政治部で与野党、文部科学省を担当。子育てから年金、介護まで社会保障分野の万能選手。



新型コロナウイルス禍を通じて増えたものがある。その一つが、無料や低価格で食事を提供する子ども食堂だ。誕生から10年。地域の人々の善意に支えられ、子どもたちの困窮を防ぐセーフティーネット（安全網）として進化を続けている。

### 誕生から10年 全国6000か所以上に

東京都大田区の一隅にある「だんだんワンコイン子ども食堂」。八百屋を営んでいた近藤博子さん(63)が2012年、地域の子どもたちに夕食を低価格で提供し始めたのが、「こども食堂」の名前を冠した活動の第1号と言われている。

八百屋に来ていた小学校の副校長から「病気がちな母親の子が、夕食はバナナ1本で過ごしている」という話を聞き、「ここで何か作って食べさせてあげたい」と思ったのがきっかけだ。「こども食堂」と命名したのは、学校と家庭を居場所とする子どもが「一人で来ても怪しまれない場所に」との思いからだ。

近藤さんは「おなかをすかせ

た近所の子にちょっと食べさせてあげるとい、誰でもできる手軽さが、活動の広がりにつながったのでは」と話す。

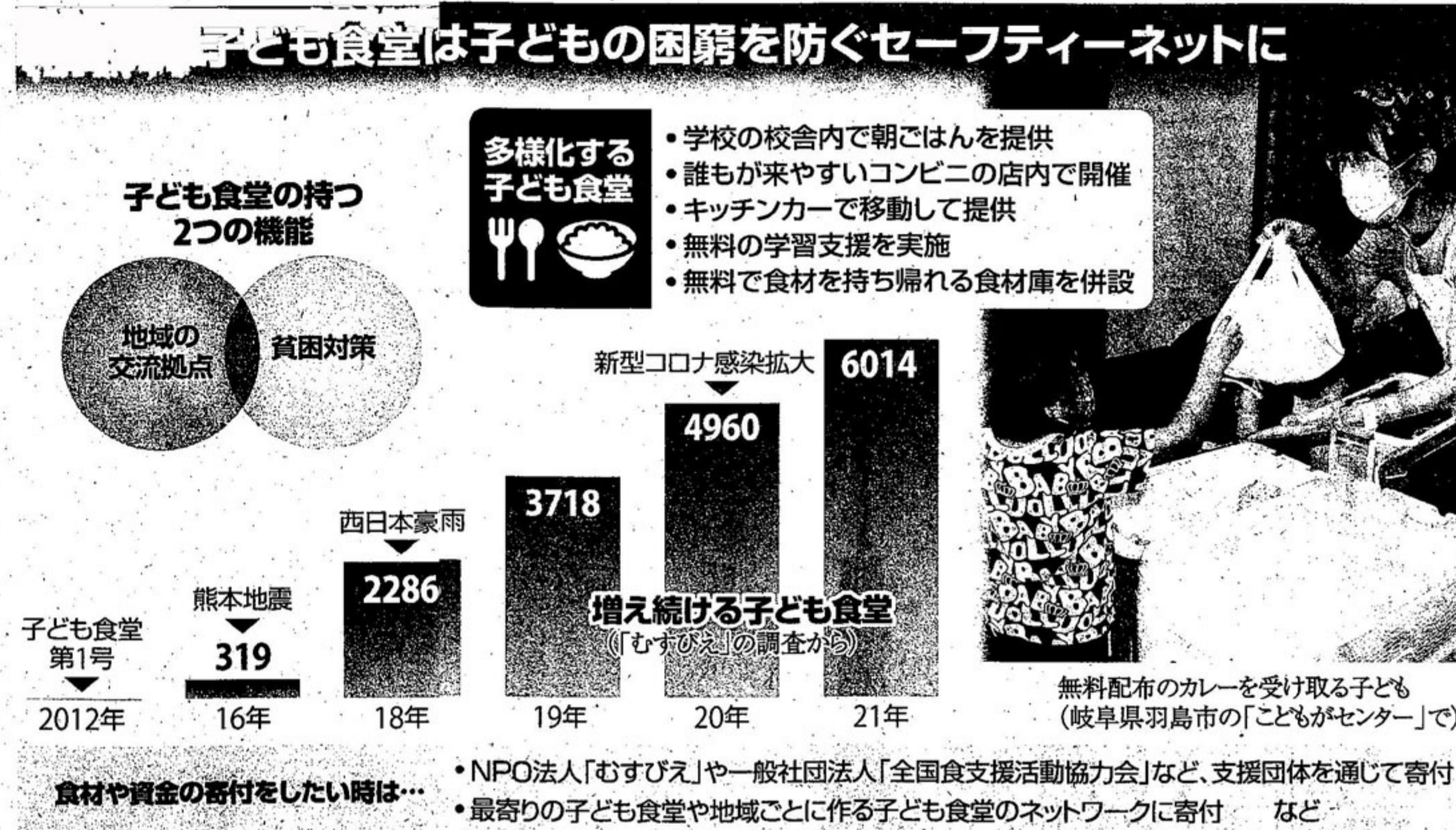
子ども食堂は企業や農家などに資金や食材を寄付してもらい、地域の有志がボランティアで食事を提供することが多い。

全国の子ども食堂を支援するNPO法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」によると、コロナ禍前の19年は約3700か所だったが、21年には6000か所を超えた。職を失うなど経済的に困窮する家庭が増えたことが背景にある。最近は感染対策で、一緒に食べる食堂形式から、弁当の配布や食材の宅配に切り替える動きも広がる。

### コロナ禍で行政からの支援拡充

子ども食堂が誕生した10年代前半は、単身世帯の増加に伴う地域のつながりの希薄さが注目され始めた時期と重なる。孤独死や、独りでの食事「孤食」が広く知られるようになり、「無縁社会」という言葉も生まれた。「子ども食堂は、つながりの

重要性を痛感する災害のたびに増えてきた」と指摘するのは、むすびえ理事長の湯浅誠さんだ。18年の西日本豪雨など大きな災害が起きると、地域が復興していく過程で子ども食堂が生まれ、数が増えていった。20年に新型コロナウイルスの感染拡大が深刻



になっていくと、子ども食堂と行政との連携が一気に進んだ。

行政が子ども食堂の開催場所を広報したり、予算を投入したりするといった動きも広がった。厚生労働省は子ども食堂を支援する団体に助成金を出し、農林水産省も政府備蓄米の提供を始めた。

物価上昇が食材の調達に影を落としているが、個々で活動していた食堂がネットワークを構築。寄付の受け付けを一括して行い、食材を融通しあうなど、体制強化も進んでいる。

### 間口は広く、緩く

子ども食堂が持つ最大の力は、その「緩さ」だ。税金を充てる行政の福祉サービスは、支援対象となる人を厳格に定義するのが原則だ。支援を受けるには年齢、収入、障害の有無などの条件がある。申請しないと受けられない「申請主義」で、各種証明書の提出など手続きも煩雑だ。申請する知識やノウハウもない困窮者に支援が届かない弊害も指摘される。

一方、子ども食堂は困窮状況を問わず、「誰でも利用OK」を掲げるところが多い。20年度の厚労省の研究事業の調査では、子ども食堂の78.4%が「参加者に条件を付していない」と回答した。この間口の広さや緩さが、福祉の安全網からこぼれる人を救う力となっている。

困っている人を、地域の人が自分のできる範囲で助ける子ども食堂。かつての地域の助け合いとつながりが、現代に形を変えて現れたとも言えるのではないだろうか。

### MEMO

#### 世代を超えた交流拠点

子ども食堂は最近、世代を超えた住民同士が協力し合う地域の交流拠点としての側面が注目されている。

全国に約30万ある自治会や町内会。地域の見守り活動や衛生管理、防災などで地域コミュニティの中心的役割を担っているが、住民の高齢化や加入率の低下によって、十分な機能を発揮できず、形骸化しているところもある。

総務省が設置した「地域コミュニティに関する研究会」は、自治会が子ども食堂と連携し、地域を活性化する将来像を描く。4月にまとめた報告書では、子ども食堂が「つながりを実感できる地域づくりの役割を果たしている」と評価する。

例えば、宮崎市では市内38か所の子ども食堂のうち、自治会が主体となって実施しているところや、回覧板で告知や寄付の呼びかけをしているところが13か所ある。子ども食堂をきっかけに清掃などの自治会の活動に参加するようになった人もいるという。自治会の担い手発掘や地域活動への参加促進が期待できる。

子ども食堂で、ごはんを一生懸命ほおぼる子どもたちの姿。見る人を幸せにするだけでなく、地域の支え合いを呼び起こす力も秘めている。

### 新聞教室ミニ

きょうのひと皿 火～土曜の暮らし面に掲載しています。毎日の献立作り役に役立つレシピを料理研究家3人が週替わりで紹介。レシピは

旬の野菜など様々な食材を使い、経済的で栄養バランスがよく、手軽に作れるものを中心。調理時間の目安、熱量、塩分量も記載しています。

